

大阪万博 2025 見学記

2025.6 久米五郎太

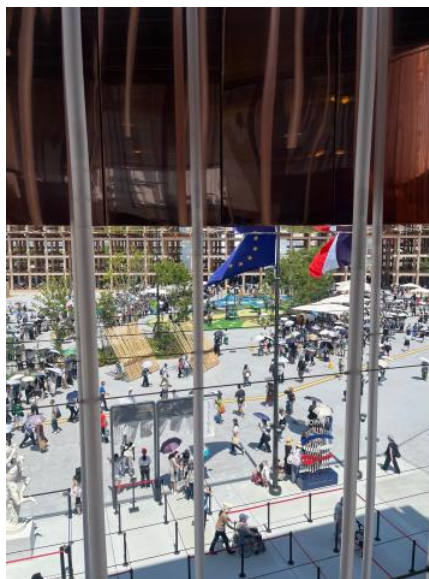
1. 6月19日、20日の両日夢洲の会場を訪れた。

初日は、パリクラブ会員にも声がかかったフランス商工会議所 C C I F J 主催のツアーに参加。簡単な昼のカクテルの後、フランス館のほか、女性館、米国・スイス・ドイツ・モナコの各国館をグループに分かれて見学した。いずれもフランス商工会議所が事前に手配してくれており、人気の米国館でもあまり待たされることもなく、スムーズに見学が出来た。

翌日は一人でアルジェリア館を訪問、館長他と懇談、そのほか、予約なしで入れるパヴィリオンで、チリ、コートジボワールの展示を観た。

2. フランス館

(1) 荷物を西梅田のホテルに置き、JR で大阪から弁天橋へ、そこで地下鉄に乗り換え、終点の夢洲駅まで。30 分程度だったか。VIP 専用の口から東ゲートを入り、大リングの下を抜けたすぐのところにフランス館がある。隣の米国館とともに、リング脇の主催国の日本館に最も近く、よく目立つ位置にある。フランスはこれまでの開催回数が最も多く、国際万国博覧会協会事務局 (B I E) の本部があることも関係しているのだろう。



フランス館からみた会場・大リングの下部

建物は、白い幕（長のれん）のようなものに覆われ、全体がよく見えないが、真ん中に薄い赤胴色の螺旋階段がある。ツアー参加者は3階のプレゼンテーション・スペースでまず日本語とフランス語両国語での説明を受けた。フランス館は最も多くの入場者が入っていること、パビリオンの費用は政府と民間企業4社（LVMH、A X A、Nina Pharma、アルザスワイン）の折半負担。一種のPPP事業であるらしい。建物は軽く、換気にも留意した作りである。他に、カルチエ（LVMH グループ）が日本政府の運営する女性館に協力している。

軽いカナッペと飲み物を取り、参加者同士そして若干のCCIFJメンバーとの交流の後、参加者は3、4グループに分かれて、各パビリオンをそれぞれ20分程度で見学した。

（2）フランス館で印象に残ったこと。ロダンの手の彫刻（創造する手など）がいくつかのテーマで登場。ノートルダムの怪獣と森の中のもののけ姫の場面、ヴィトンの数百もの旅行カバン、現代美術館ボーブル屋上でのパドトロワ（三人のダンサー・女性1人は日本人、男性2人）のビデオ、池面の中央の南仏から運んできたオリーブの古木、アルザスのブドウの木と豊かなテロワール土壌、ディオール3色のバー？（裾が少し開いたジャケットとスカート）や白のミニチュアの仮縫いトワルのコレクション、模型の日仏の島（西表とボラボラ）での多様性維持活動、宗教の島たる厳島とモンサン・ミシェル。そして最後にCEAによる原子力・再生エネルギーの展示がある。



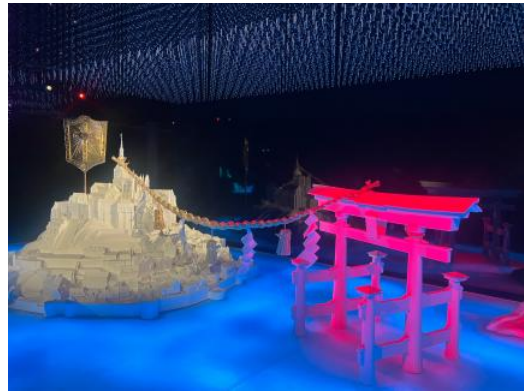
ノートルダムの怪獣ともののけ姫



旅行カバンー旅への誘い



デイオールの仮縫見本トワル



モンサンミッシェルと厳島神社

(3) ところどころで写真を撮り、説明につながる QR コードも読み込んだがフランス館の外に出るとそれが消えてしまう。しかし、その後、仏英日の3カ国語での没入型オーディオビデオがあり、より詳しい説明を得られることを知った。<https://franceosaka2025-tour.fr>

会場を駆け足で回った後、このビデオをじっくり見、追加説明のサイトに飛ぶことで展示の狙いの理解を深め、会場に来られない人もこれでフランス館のおおよそを把握できる。フランス館は公的な見本市会社たる COFREX の企画・運営になり、その実に洗練された展示がビデオになっている。他のパビリオンでも QR コードがかなり使われていたが、訪問の前後に見ることができ、全体をカバーするビデオは少ないようである。著作権などの問題も公的な会社なのでうまく処理しているのだろう。

3. 初日に見た他のパビリオン

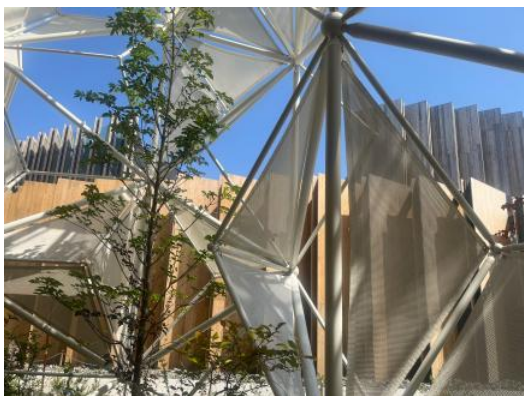
(1) 女性館（ウイメンズパビリオン）

男女が一緒にとという意味の、「ともに」がスローガン。

前回2020年のドバイ万博で長山祐子が設計した日本館のファサードを今回再利用。万博の歴史では、1893年のシカゴで単独の女性館（テーマは女性の美術）が作られ、次が1世紀以上経ってのドバイ、そして今回は日本政府（内閣府、経産省）が建設・運営し、ドバイに引き続きカルチエが協力している。三人の女性—日本人の吉本ばなな、スーダン女性、メキシコ女性—の生き様が扱われ、世界における男女均等の現状—女性国会議員の比率の低さ—など、幾つかの

データも示される。最後のブースでは、もう少し多くの女性たち（黒柳徹子も一員）の写真が展示され、訪問者が短く話せる。

吉本ばななのケースを見たが、むしろ紛争に巻き込まれたアフリカや貧しい中南米の女性のケースを見た方が印象深かっただろう。娘の会社のパートナーたるフランスの飲料企業の社長はこの展示に非常に感動したらしい。今回の万博の大きなテーマが男女平等の問題だと、国際万博協会（B I E、本部フランス）の年報は特集を組んでいるが、こうした点は日本のマスコミにはあまり報道されていない。



女性館から見た隣の日本館



女性国会議員の比率

（２）アメリカ館

人気の高いパビリオン。三角形の建物が二つ並ぶ。星型のスパーク（マスコット）が画面を自由に飛んで案内する展示の最初は、米国は学習する若者の受け入れに力を入れているとのアピール。ついで、アメリカの様々な州の自然やそこでのイノベーション・ハイテク・スタートアップなどの活動の大画面での紹介。ワイオミングでの最新テクノロジーを使った農機操縦の画面もあり、大谷翔平のホームラン・シーンやトランプ・石破両首脳の握手も出てくる。

次のテーマは月への旅行、観測船打ち上げの様子一頭上から船が打ち上げられ、水蒸気などが放出される。最後のところにアポロ17号が持ち帰った「月の石」が展示されていたが、待ち時間が長いとの表示があり、見ないで出たのが少し悔やまれる。フランス館のような全体をカバーするビデオがあるか探しているが、今のところ見つかっていない。



ワイオミングのハイテク農業



宇宙船打ち上げ

大人向けで芸術的なフランス館に比べて、アメリカ館は若者や家族連れなどより広い層をターゲットにし、我々が思うアメリカの魅力を要領よく展示し、わかりやすい。展示については、随分前からテーマが決められ、準備をしたのであろう。最近のトランプ政権下での外国人学生受け入れ制限の動きとはだいぶ違いがあると感じた。

(3) スイス館

「ハイジからハイテク」。ハイジのマスコットが館内にいるうちにと、同じグループで回っている Y さんとの写真をまずとる。入ったところには、大きな切り絵模様が作られており、スイスの紹介や日本との関係が示されている。輸銀時代にスイスフラン債発行に関わった時、日本とスイスの関係について当時の日本大使は金融面での密接さを強調していたが、今はどうなのだろうか。

切り絵の中にはアインシュタインの顔もある。建物の天井はビニールで作られ、他のパビリオンに比べても軽量らしい。どこの国もパビリオンの建設は、省エネ、サステナビリティを強く意識している。

ハイテク分野では、膨大な数の J P E G 写真を小さなフィルムに保存する技術などが展示されていたが、この分野では一般の人が興味を持てるような展示はなかなか難しいと思われた。



スイス館ーハイジと Y さん

（４）ドイツ館

入り口のステージではマスコットが子供達を出迎える。「わ Wa」がコンセプト、テーマは循環経済 circular economy であり、かなりしっかりとした展示である。小さなマスコット・サーキュラー君の説明―日英独のいずれかの言語を選択、指定された場所でチャージすると音が流れ、耳に当てて聞くと―を一人一人が聞きながら回るというもの。

昔、２０００年に行ったハノーヴァー万博では、ドイツは政府館も K F W など経済・技術協力機関館も環境・地球温暖化をテーマにしていたことを思い出す。その時も感じたが、ドイツのアプローチは真面目、正攻法だが、ちょっと遊びに欠ける。少し疲れを感じ、急いで回った。

（５）モナコ館

今日最後の見学先。まず別館に、そこにはいくつかの俳句の横に海の渦や波が動くような画面がある。中庭にはモナコでは公園でミツバチを飼い、蜜を生産しているとの展示があり、日本産のオリーブの古木も植えられている。本館をざっと見た後、エレベーターで上の階のラウンジに上がると、窓の外に紅い花の飾り（薔薇の花びら）が垂れている。

そこで、Y さんが抽選で当てたという、オテルドゥパリの無料券で３種の白ワインをゆっくりと味わった。７年前に、人に勧められモナコでコーチングを受

け、準ミス・グラムになった彼女は、時たまモデルの仕事をやっており、サーブされると品の良い英語でありがとうと、いっている。



「風有をもって尊し雲の峰 一茶」 白ワインのデギュスタシオン 向かいにはアゼルバイジャン館

4. 第2日

(1) 今日も暑そうだ。10 時開店を待って、大丸梅田店でテニス用のショートパンツと靴下を買って、身軽な服装で行動することにした。旅行バッグは、隣の新大阪駅まで行き、駅ビルの大きな一時預かりの場所に預けた。新幹線入り口近くのコインロッカーはすでにどこもいっぱいである。

今日は西ゲートから入るので、JR を乗り換え桜橋駅まで行き、そこから先は連絡バスである。しばらく列を作っていると、予約があるか聞かれ、ない人は横にと言われる。少しして、ない人もどうぞと言われ、列に入り直しバスに乗車。上を高速道路が走り、コンテナヤードも近い湾岸をバスはしばらく走り東ゲートに着く。客の流れはバスに乗る段階でコントロールされる結果、着いた先のゲートでの入場客数も少なく、携帯に入っている入場券の QR コードを見せるとあっという間に入場できた。

(2) 目の前にパナソニック館があり、その先の大リングからはいるとベルギー館、隣はイタリア館。その横にテーブルと椅子がある休憩スペースがあり、まずそこで大丸で買ってきた海鮮弁当を食べる。この場所はあまり知られてないようだ。



入場券はデジタル



少女が案内するアルジェリアの歴史と持続的な開発

(3) 私はパリクラブ以外にも、仕事などで関係があったアルジェリア、ボツワナ、コートジボワールの友好協会に入っている。2日目はいわば「推し活」と言ったつもりで、それらのパヴィリオンを中心に回った。

(4) アルジェリア館

少女が案内するアルジェリアの歴史と最近の大画面ビデオ (Lights of Algeria) を見た。その後、数日前に公邸でお会いした大使の勧めもあり館長などに会い、印象を話し、アルジェリアと日本の関係強化についてしばらく話をした。

この国とは仕事の面でかなり長く接点があったが、今回の展示で初めて知ることもしずかしくなかった。ナイジェリア・アブジャまでのサハラ砂漠の下を走る地中光ケーブル、他にも太陽光発電所、スマート・シティ、東西に走る鉱業鉄道などの完成である。入り口のアルジェリアの国の紹介やアルジェリアの values はなかなかという最後の展示もよくできている。

(5) ボツワナ、コートジボワール

今回、ロシアは万博不参加、メキシコやアルゼンチンが参加を取りやめたが、アフリカでは南部アフリカのボツワナもパビリオンを出していない。昨年10月の総選挙で政権与党が大敗し、独立後58年にして初めて野党から大統領が出たこと—その背景は経済の不振、失業率の急上昇—が影響しているのであろう。

西アフリカのコートジボワール(国名はフランス語表記)のブースにも行ってみた。コモنزの建物の中に、世界最大のカカオ生産国というタイトルで展示を出している。安倍首相とウワタラ大統領の握手の場面や木彫りの像の前での高円宮妃と文化大臣との語らいの写真があり、他に漁業・米作での日本の協力の写真もかかっている。向かいのコーナーにカカオや落花生などの袋と共にココアを入れるカウンターがある。

もう少し、説明があっても良いのではないか。ここもそうだが、ほとんどのパビリオンには印刷した資料が置いてなく、かといってQRコードがある訳でない。この国は近年経済好調が持続している点をもっとアピールしたら良かったように感じる。なお、6月のナショナルデイには大臣ミッションが来日し、大阪で官民でのビジネスフォーラムが行われたと聞く。



コートジボワールのコーナー



チリ館—織物

(6) チリ館

アルジェリアと同じ棟に入っている。たまたま午後の部の開始直後、待たずに

中に入れた。パビリオンは天井をぶち抜いた作りで、3面の大きな壁をスクリーンにし、豊かな自然やそこでの人々の生活が映される。ノーベル文学賞をとったネルーダの言葉なども出てくる。10年ほど前にサンチャゴ、バルパライソやイースター島などを観光したが、南北に長いこの国は自然が厳しいが、その中で人間の営みという点で考えさせるものが多い。

中央には、赤など多色の縦縞が入った大きな毛織物がいくつもかかっている。先住民族が羊毛から編むマクン Makun 織、マプチェ族の女性200人が作ったマント（身を守る保護衣）とのこと。スクリーンに先住民、いわゆるインディアンの女性の顔が次々と映し出されるので、案内のスタッフになぜなのかと聞くと織り手たちですと答える。チリは白人による先住民迫害の歴史をあまり表に出してこなかったと理解してきたが、今の30代の左派ボリッチ大統領が先住民の権利回復を進めていることがこの展示につながっている気がした。

QRコードを写したので、さくらんぼ、ブルーベリー、ブドウなど日本に入ってきているチリの農産物のことを知ることもできた。

チリ館は開館が数日遅れたようだが、予約が要らず、ゆったりとした展示、松のほのかな匂いなどで人気がある。

（7）会場の様子

スマホが途中でバッテリー切れになった。充電器は、前日フランス館に置き忘れたバッグの中だ。慌てて西ゲート横の案内所まで行き、短時間分を充電してもらった。そこでは有料の充電サービスや充電器を売っているが、今や空港のラウンジでは当たり前の充電用のスペース（有料でもいい）があってもよかったのではないかと思う。

予約の取れないパビリオン。日本館とシグネチャー館 Better Co-Being を一週間前、空き予約、当日と試みたが、いずれも取れない。会場中央の「静けさの森」の近くの Better Co-Being の場所まで行ってみたが、予約がないので中に入れない。秋には2ヶ月前に申し込めば予約が取れるのだろうか。

場内はキャッシュレス、ペーパーレスである。日頃スマホやカードを使った生活をしているので、飲み物を買ったり、QRコード付きの入場券を提示したりに苦労はなかった。トイレは男女別々のトイレがところどころあったが、たまたまずらっと並んだ All Gender トイレ絵文字が扉に書いてある一の杖を持った人用を使った。日本ではまだ珍しい。

万博は国際的なSDG持続可能な成長というコンセプトだけでなく、ヨーロッパ諸国を中心に Diversity Equality Inclusiveness も意識されている。女性館はそのテーマを取り上げている。大きめのバギーや車椅子、電動カーの利用も目立ち、便利になってきているようだが、会場は実に広い。私の二日間での歩行距離は3万歩になった。

最後に大リンクを少し歩いてみた。高いところから多くのパビリオンの屋根や色々な設備を見ることができ、なかなか考えられた設計だと思った。その下の日陰で並んだり、休んだり、そこまでいかなかったが、西側は海の上にでられる。

帰りは会場からタクシーに乗った。西ゲートの外に大きなプールがあり、堂島まで途中高速にのって6,900円。それほど高くはない。会場の人工島のこと、道路や地下鉄の整備・延伸のこと、大阪府の小中高生は無料で招待されていること、最近では万博会場への客がほとんどだなど、運転手は色々と話してくる。

2日目は日中の温度こそ前日同様30度半ばに達したが、時々海からの微風が吹き、大リングの下には日影もある。UVカットの日傘を少しさしたが、会場にいたのは半日だったのでそれほど疲れることはなかった。

5 最後に

万博の共通したテーマは、「世界と共に創る、いのち輝く未来社会」である。特に全体の会場の配置や日本館・日本企業の展示では、「いのち」「生命」が強く意識されている。しかし、今回はほとんど外国のパヴィリオンしか回っていない。日本館やシグネチャー館はどうなのだろうか。

160カ国も参加する万博なので、こうした一つのテーマに多くの展示を絞り込むのは難しいだろうが、根本のところでは人間やそれを巻き込む自然にとって望ましい未来とは何か、そこに万博条約にいう「進歩」という観点も含めたものがテーマと言えるのであろう。開発途上の国でSDGが強調されているのもそうした流れの中だと思う。

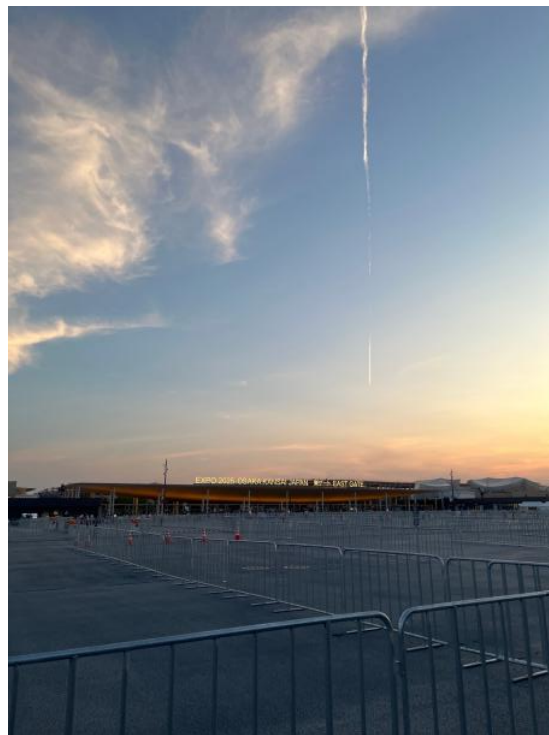
次回は秋にもう一度来てみよう。日本関係のパヴィリオンの事前予約をしっかりと取り、「いのち」や人と自然の未来についてもう少し理解を深め、考えてみたい。私自身も医療や介護の世界に少し関わっている。

55年前の千里での大阪万博見学の時は、まだ飛行機に乗ったこともなく、外国旅行や駐在もした事がなかった。それから半世紀、フランスに三回6年間住

み、仕事や観光を通じ100を超える国とも関わった。そんなことも思い出すであらう。



All Gender トイレ



万博会場東ゲート 夕方の空

以上